



CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway
日本クリニカルパス学会

No.
33

発行日
2015年3月10日

in 福井

『第15回日本クリニカルパス学会 学術集会 in 福井あわら温泉』 を開催して

2014.11.14～15

第15回学術集会 会長、福井総合病院
勝尾信一

今回の学術集会では、第15回を記念して特別企画をいくつか開催しました。

1つ目は、パネルディスカッション「ざ・サマリー」です。学術集会の最終プログラムとして、7つのシンポジウムと6つのパネルディスカッションのオーガナイザーが演者となり、自分がオーガナイズしたセッションのサマリーを発表してもらうというものです。最終プログラムということで参加者はそれほど多くありませんでしたが、パスに関するすべての分野の最先端の情報を一気に聞くことができ、今後の課題も明確になりました。

2つ目は、トークセッション「パス委員言いたい放題」です。元プロアナウンサー鳴尾健氏の司会の元、応募した13名が壇上に上がって自分の言いたいことを言い、4名のコメントーターが回答するというものです。他会場への中継もあり、テレビ番組もどきです。日頃は聞けない愚痴やピットフォールが入り混じった、楽しくも有意義な時間でした。

3つ目は、過去の学術集会写真展です。過去14回の学術集会で撮影された写真114点を年表式に掲示しました。懐かしい写真も多く、多くの参加者が笑いながら観覧して



いました。

4つ目は、一筆啓上「パスへの想い」です。全国から25通の応募があり、最優秀賞には国保旭総合病院 松永高志先生が選ばれました。

5つ目は、全員懇親会です。会場となった4つの温泉旅館にお泊りいただいた参加者全員が、それぞれの旅館の計5つの大宴会場に集まり、文字通り飲みや歌えの大宴会を繰り広げました。約1,200名という参加者数は、当分破られない記録となるでしょう。全員懇親会後に開催した「カニ次会」にも約500名が集まり、夜が更けるまで飲み交わしました。

特別企画ではありませんが、ポスター会場とランチョンセミナー会場を畳の和室で開催しました。ポスター会場では、参加者がポスターの前を移動するのではなく、会場内の小舞台にポスターを移動し、そこで発表しました。参加者は座布団に座りゆったりと聞くことができました。ラン



勝尾信一先生

▶『第15回日本クリナルパス学会学術集会 in 福井あわら温泉』を開催して
第15回日本クリナルパス学会学術集会賞 最優秀賞を受賞して
済生会熊本病院 第100回記念クリナルパス大会を開催しました！
済生会熊本病院 第100回記念クリナルパス大会報告

チョンセミナー会場では、お膳にお弁当という純和式のスタイルで、スライドを使わない講演を聞きました。

副島新理事長となり、節目の第15回の学術集会を、温泉旅館で開催するというので、かなりの不安がありました。何とか及第点にあたる結果だったと思っています。これもひとえに参加していただいた皆様の、寛大な心があったからだと思います。本当にありがとうございました。



in 福井

第15回日本クリナルパス学会 学術集会賞 最優秀賞を受賞して

2014.11.14～15

トヨタ記念病院 錦織真希

受賞の瞬間は言葉を失いました。本当に私の名前が呼ばれたのか、耳を疑ったというのが率直な感想です。それは、まさか自分が最優秀賞という輝かしい賞をいただけるとは、夢にも思っていなかったからです。

去る11月に福井県あわら温泉にて、第15回日本クリナルパス学会学術集会が開催されました。私は、人生で初めて学会発表を行うということもあり、行きの特急しらすぎの中、緊張と不安で車窓からの景色が目に入ってきました。

あわら温泉に到着し、ポスター会場に向かうと、なんとそこは畳の和室。いつもの学会とは違う、日本ならではの趣に心とめ、緊張の糸が少しずつほぐれていくのを感じました。

ポスター会場は、すでに多くの参加者で溢れており、パスを用いて、患者と医療者の心をつなぐという熱い思いを感じ取ることが出来ました。

今回私がエントリーさせていただきました演題は、「効

果的な専門的口腔管理に必要とされる指標の検討」というものです。近年、適切な口腔管理の重要性が明らかになり、今後、クリナルパスに口腔管理を編入していくには明確で簡便な指標が必要となるにもかかわらず、口腔管理の方法や期間など、これまでに統一された指標はありません。そこで今回の研究の目的は、より効果的な指標がないか明らかにすることでありました。我々は、当院併設の老人保健施設入所者を対象として専門的口腔管理を3日間実施し、介入前後での口腔環境の変化を比較検討しました。

この研究から、口腔環境の改善を得るためには、1. 口腔の易汚染域を理解した上での管理、2. 義歯使用者にはカンジダを意識した管理、3. 義歯に隣接した歯に留意した管理が必要であるという結果を得ることが出来ました。今後は、チーム医療の一員として、歯科医療従事者からも、口腔管理に関するアウトカムを具体的に提案し(例えば「義歯の清掃が出来ている」「義歯に隣接する歯の清掃が出来ている」など)、クリナルパスの質向上に積極的に関与していくことが重要であると考えます。

このたび、私が最優秀賞という名誉な賞をいただけたのも、ご教授いただいた町田純一郎先生、川端 厚先生、岡本泰岳先生を始めとした多くの方々のお力添えによるものであります。この場を通じてお礼を申し上げたいと思います。本当に有難うございました。

これからも研究を通じて、クリナルパスの普及に積極的に邁進してまいりたいと考えておりますので、パス学会会員の皆様より末永くご指導賜りたく思っております。

また、今回、学会開催にご尽力いただきました、福井総合病院 勝尾信一先生を始めとする主催者の皆様方に心より感謝申し上げます。会場一体となり、盛大に盛り上がった懇親会はこれまでに経験したことがなく、記憶に残るものとなりました。本当に有難うございました。



【日本クリニカルパス学会 第15回学術集会賞 受賞者】

最優秀賞：

トヨタ記念病院

錦織 真希

優秀賞：

福岡市医師会成人病センター

丸田 智実

神戸大学医学部附属病院

菅野 亜紀

船橋整形外科病院

町田理恵子

済生会横浜市東部病院

佐藤 浩通

済生会熊本病院

松本晃太郎

入賞：

高崎総合医療センター

井戸彩恵子

総合病院国保旭中央病院

田島 英史

青森県立中央病院

村上 成明

福島県立医科大学附属病院

二階堂あゆみ

大阪市立大学医学部附属病院

平松 直子

聖隷三方原病院

松下 君代

熊本機能病院

桑原 萌

聖路加国際病院

宮崎 晋宏

福井県立病院

丹羽 智

熊本中央病院

金子 美穂

済生会福岡総合病院

的野 可奈

岩手県立中央病院

高橋まり子

やわたメディカルセンター

中島和香子

岩手県立大船渡病院

村上 直子

鶴岡協立リハビリテーション病院

茂木 紹良

若草第一病院

中村真佐子

(順不同)

Kris Vanaecht 准教授をお招きして、European Pathway Association (EPA) でのパス活動についての特別講演、最後に懇親会と盛りだくさんの企画をいたしました。院外からも150名のご参加をいただき、その名の通り、記念すべきパス大会となりました。

当院では、クリニカルパス推進委員会が年間計画を立て、2ヵ月に一度のペースでパス大会を運営しています。毎回、1つのパスをテーマにして、バリエーション分析をもとに多職種でケアプロセスを見直し、パスを改訂することで、医療の質改善活動に繋げることを目的としています。医師や看護師だけでなく、診療・ケアプロセスに関わるすべての職種で検討し、改善していくプロセスが、チーム医療をより実践しやすくなってきたと思います。パス大会開催においては、パスデータの分析、課題に対する改善案の検討、パスの改訂を2ヵ月程度で行います。その間、関係職種で4～5回のミーティングを行い、最終的にプレゼンテーションできる形にしていきます。また、パス大会は院外の方にも公開しており、これまでに延べ2000名以上の参加がありました。外部からの意見や情報も改善プロセスにおいて必要であると感じています。これまでのパス大会100回の積み重ねは、スタッフの知恵と努力の結集であり、それが



in 熊本

済生会熊本病院 第100回記念クリニカルパス大会を開催しました！

2015.1.23

済生会熊本病院 TQM部 森崎真美

済生会熊本病院では、1997年10月の第1回クリニカルパス大会から毎年5～6回のパス大会開催を継続してまいりました。そして、2014年度に100回を達成するにあたり2015年1月23日(金)に「第100回記念クリニカルパス大会」を開催いたしました。「継続は力なり～クリニカルパス大会100回達成の成果」をテーマに、記念講演、記念パス大会、そして、ルーヴェン大学(ベルギー)の

現在の当院の医療の質に繋がってきているのではないかと思います。

パスは電子化によって進化してきているように、利用する私たちもパスで得られた情報をうまく活用して、さらに医療の質を向上させていかなければならないと思います。101回目からもこれまで以上にクリニカルパスの発展に繋がるようなパス大会を目指し、継続して行く所存です。

最後になりましたが、ご参加くださいました皆様には、深く感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

〈第100回記念クリニカルパス大会 プログラム〉

第1部：記念講演 13：30～15：30

「パス大会を振り返って

～パスが変えたもの、パスに期待するもの～

町田二郎（クリニカルパス推進委員長）

「クリニカルパスを定着、発展させるために必要なこと」

副島秀久（済生会熊本病院 病院長）

第2部：第100回記念パス大会 15：45～17：15

「大腿骨近位部骨折 骨接合術パスにおける質改善活動」

整形外科医師、看護師ほか

第3部：特別講演 17：30～18：30

「ヨーロッパにおけるクリニカルパス事情」

講師 Dr. Kris Vanhaecht (Associate Professor in Quality in Healthcare, KULeuven University, Belgium Secretary General, European Pathway Association)

懇親会：19：30～21：30 ホテル日航熊本

in 熊本

済生会熊本病院 第100回記念 クリニカルパス大会報告

2015.1.23

石川県立中央病院 久保 実

済生会熊本病院 第100回記念クリニカルパス大会が2015年1月23日（金）午後1時30分から済生会熊本病院のコンベンションホールを会場に「継続は力なり～クリニカルパス大会100回達成の成果～」をテーマに開催された。記念大会でもあり、平日にもかかわらず院外からも150名の参加があり、ホールもほぼ満席で盛会であった。開催の報を受け、早速パス委員長などと共に申し込み5名で参加、私にとっても念願の済生会熊本病院詣でが実現した。

パス大会は三部構成になっていて、第一部は記念講演が2題、第二部は記念パス大会、第三部は特別講演となって



左から副島先生、Dr. Kris Vanhaecht、久保先生

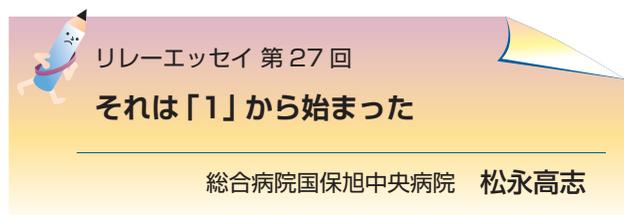
いる。記念講演1は、副院長・クリニカルパス推進委員長の町田二郎先生による「パス大会を振り返って～パスが変えたもの、パスに期待するもの～」であった。前半ではパスの構造がJCI (Joint Commission International：国際社会における患者と医療ケアの質を改善するための認定・認証を行っている機構)の求める医療の質そのものであること、標準化やアウトカム志向、PDCA サイクル、チーム力などについて述べ、後半では電子クリニカルパスとNECと共同開発したNECV (Novel Electronic Clinicalpath Viewer)の可能性に触れ、改善活動を通常業務化することで新価値の創造と生産性の向上が期待されると結んだ。記念講演2は副島秀久院長による「クリニカルパスを定着、発展させるために必要なこと」であった。済生会熊本病院のクリニカルパスは須古博信前院長が1996年の北米病院医療視察でパスを持ち帰ったことから始まり、翌1997年10月に第1回パス大会が開催され、17年間で100回を達成したとのことである。「継続は力なり」というが、その間の職員の弛まぬ努力はもちろんのこと、それを強力に率いてきた副島先生に深甚の敬意を表す。1998年、須古前院長のミッションで米国からパスの資料を持ち帰り、パス合宿などで喧々諤々の議論を繰り返し、アウトカム志向のパスと日めくり記録そして紙パス作成ソフト Path Team Liteを開発した。その後、電子カルテの自主作成を試みたが挫折し、NECと共同研究開発に変更しBOM (Basic Outcome Master)やNECVを開発、医療記録からデータが取り出せる電子カルテを作成した。今後はそこから得られるビッグデータが医療を変えていくに違いないと思われた。さらに講演ではチーム医療とリーダーシップに触れ、それぞれの職種が自分の責任を持って仕事をし、提言をして改善を行うことの大切さ、リーダーの正しい権限の使用によってチーム医療がなされることを説いた。

第二部は本題のパス大会で、「大腿骨頸部骨折 骨接合

術クリニカルパスの分析による質改善活動」をテーマに町田先生の座長で行われた。整形外科医師の疾患概要説明の後、看護師によるパスの説明、バリエーション分析による改定の提案の他、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、医事課職員がそれぞれ2、3の課題を提示し分析し改訂への提言を行った。各発表での議論が白熱し、最後の全体討論が出来なかったことは残念であったが、それぞれの発表の質の高さはさすがと思われた。二百数十の手術例の分析が行われたが、手作業では不可能で済生会熊本病院の電子カルテならではのことであり、その威力をまざまざと見せつけられた思いである。

第三部はベルギーのルーヴェン・カトリック大学 Kris Vanhaecht 教授による特別講演「ヨーロッパにおけるクリニカルパス事情」であった。EPA：ヨーロッパパス学会がケア・パスウェイの利用者団体で、学術的ネットワークおよび個人会員で構成され、夏季講座やマスター過程などの他、膨大な多国間研究を行っていることなどが示された。最後に「患者へのサービスの質があなたが受け入れられるレベルは、あなた自身が患者であった場合に期待する質のレベルのみである」と述べたが、パスを用いてそれを追及していきたいと改めて強く思った次第である。

パス大会の後、会場をホテル日航熊本に移して懇親会が行われ、熊本の美味しい料理とお酒をいただきながら活発な意見交換が続いた。



リレーエッセイ 第27回
それは「1」から始まった
総合病院国保旭中央病院 松永高志

彼は最後に“Enter”キーをそっと押した。小さな、しかし初めての体験に達成感めいたものを感じながら目を閉じる。東の間、いつものドクターコールだ。「日常」に引き戻されると同時に、この出来事は彼の記憶の底に沈んでいった。6ヵ月後に起きる事件の種が今蒔かれたとは、知る由もなかった。

妙な書き出しの旭中央病院 松永です。わが友信藤さんの指令を受けて担当します、光栄です。前のページには第15回学術集会の公式報告が掲載されていると思います。私はチーム旭の行動を中心に裏学会報告を書いてみます。

気づいたのは出張前日の荷造り中でした。参加証を見るとNo.00001！そういえば初めて登録初日5月15日に申し込んだのです。すっかり忘れていたけど、No.1とは。「これは学会できっと何か起きるぞ（例のあれで何かやらかす

のか?）」との予感を胸にあわらへ旅立ち。我々5人グループは「レンタカーで東尋坊からホテルへ」という私の妙案に即行動。しかし我が「晴れ男伝説」は東尋坊の荒波とともに木端微塵に砕け散り、(感謝してないのに) 雨あられの中を彷徨、これがNo.1の御利益か？4人の無言攻撃にもめげずホテル到着。夜はチーム旭前夜祭で更けていきました。

学会1日目も無事に終わり（これ学会報告？）お楽しみ全体懇親会、グランディア芳泉の広い宴会場はすごい人数で向こうの端は霞んで見えません（言い過ぎ）。知らない同士がすぐ仲良くなる、これパス仲間のすばらしいところで、歌い、踊り、じゃんけん大会と大盛り上がりでした。当院の岩田某を名乗る者がやたら舞台上上がっていましたが関知していません。私は大阪市大、松任石川中央病院の方々、後は思い出せないが多くの方と乾杯の連続。ここでNo.1の2回目で最高の御利益がありました。学術集会公募の「一筆啓上パスへの思い」で、私の作品が最優秀賞に選ばれたのです。正のバリエーションをいただき感謝。次はカニ次会、いやチーム旭には明日に向けて大事な仕事か…ホテル2階廊下でゲネプロです。旭のさくまモンと松山のふなっしーの厳しい監督・演出のもと2回3回と稽古、カニ次会に着いた時には半ば過ぎでした。勢いにつき暴徒化したチーム旭は3次会へも乱入、日本海総合病院と神戸大学の皆さん、御迷惑をおかけして申し訳ありませんでした<(_ _)>。

学会2日目、今日は忙しいのです。総会、発表の応援、教育セミナー、そして「例のあれ」。河村先生から指名されたランチョンの座長、よく聞けばセミナーではなく劇団の座長とは…うまいっ！で、ランチョンセミナーの話。テーマは「パスを医師にわかってもらうには」（魅力的）、8時前に完売(?)のプラチナチケットを持った皆さんで大盛況。寸劇で医師とナースのパターンを具体化・見える化し…、



右から3人目：松永高志医師

見てない方は題名「パスパンマン！あわら温泉編〇〇はパスを救う」から御推察を（禁止用語のため詳細は書けません）。その後は質問コーナーで皆さんの悩みに答える参加型、1時間はあっという間でした。皆さんによかった、力をもらった（新しい顔！）と好評でしたが、中には最後まで「これ何？」と呆然としていた人も。今回は四国がんセンター、高崎総合医療センター、守谷第一病院と旭の共同作業、No1. 第3の御利益はみんなで仲良く楽しくできたこと、第4の御利益はこんなことでも学会追放にならなかったことです。

午後は教育セミナー講師、だけど省略。一つだけ2日目夕方まで空席だらけだろうと心配でしたが、数多くの方が最後まで熱心に聞いてくれました、感謝しています。

やあ、学会楽しかったなあ。勝尾先生はじめスタッフの皆様、改めて御礼を申し上げます。このエッセイ何が言いたいかというと、これを読んだあなたが次回はNo1.を狙って初日に申し込んでね、ということ。

さて、次回は東北の女神、岩手県立中部病院の高橋奈美さんをお願いします。

事務局より



第16回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：2015年11月13日（金）・14日（土）

会 場：東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾート
〒279-0031 千葉県浦安市舞浜 1-7

会 長：小西 敏郎（東京医療保健大学 副学長）

メインテーマ：『未来に向けたクリニカスパス
～スマートプラチナ時代の活用を探る～』

プログラム：

理事長講演、会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、
パネルディスカッション、教育セミナー、論文の書き方セミナー、
一般演題（ポスター）、クリニカルパス展示 など

参加登録募集期間：

2015年6月16日（火）～10月13日（火）

演題募集期間：

2015年6月16日（火）～7月30日（木）

第16回学術集会公式ホームページ：

<http://www.congre.co.jp/jscp16/>

2015年度 クリニカルパス教育セミナー

『クリニカルパスを役立てよう！広めよう！～実践ノウハウ～ 2015』

【大阪会場】 会 期：2015年8月1日（土）13：00～17：00
会 場：大阪国際交流センター（大阪府大阪市天王寺区上本町 8-2-6）

【東京会場】 会 期：2015年8月8日（土）13：00～17：00
会 場：一橋大学 一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター 2階）

【東北会場】 会 期：2015年9月12日（土）13：00～17：00
会 場：仙台国際センター（宮城県仙台市青葉区青葉山無番地）

参加登録：学会ホームページ（<http://www.jscp.gr.jp>）から4月中旬以降にオンラインにて登録してください。詳細は学会ホームページをご覧ください。



発行

日本クリニカルパス学会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-8-10 外苑マンション 605

TEL.03-3354-2005 FAX.03-3354-2017 ホームページ：<http://www.jscp.gr.jp/>